

# 五歳児の記録⑪

十月四日 土曜日 晴

遊戯室で音楽リズム  
運動会の練習

明日の運動会に関するいろいろな注意事項



## 二学期

磯部景子

十時四十五分

遊戯室で自由表現の遊戯やスキップをする。

子どもたちはのびのびと活動する。

十時四十五分～十時五十分

運動会の隊列の組み方(二列↓四列↓一列)を練習する。

十時五十分～十一時十五分

海の組(五歳児)といっしょに入場、行進、ラジオ体操第二を練習する。

十一時十五分～三十分

保育室に帰って先生が明日の運動会の注意事項を話す。

十一時三十分

帰園

十一時十五分

運動会の練習を終わって保育室に帰る。

「手ぬぐいを持って帰りましょう」といいながら、先生は子ども

もたちがぬいだカーディガンを各自にわたす。

子どもたちは帰り仕度をして、いすにすわる。

先生は黒板に明日の運動会の出場種目をかく。

かいかいしき

つなひき

リレー

ゆうぎ

先生「さあ、これだけみんなあしたするのよ。ゆうぎの中にはタン

プリンにするのや、きゅうびいさんや、動物のが入っているのよ。開会式はこれから始まりますよっていう式だからみんなであるの。つなひきはこのあいだ勝ったから今度もきつと勝つだろうなんて思わないで、いっしょうけんめいするのよ。Mちゃん、Aちゃんきこえたかしら」

MとAが話しているので先生は注意する。

「それからね、あしたお天気だったら、またいつもよりはやいのよ。八時四十分までに幼稚園にくるの」といって、黒板に8じ40ぶんと書く。

「おくないでいらっしやいね。このあいだは少しおくれた方がいらしたけれど、あしたは本当の運動会で、始まってならんじゃったら入れていただけなのよ」

Mが指をなめている。

「Mちゃん、あなた、時々まだおてを口に持っていくけど、もうおかしいわ。もうそんなことはやめましょうね」

◎がとなりの子どもとしゃべる。

「◎ちゃん、きこえる？」と注意する。

「あしたはね、エプロンはしてこなくてもいいわ。でもハンカチだけはつけていらっしやいね。そう、お母さんにいってね。」

◎ちゃん、お話ししないで書いていらっしやい。それからあしたはおうちのお父さんやお母さんや、それからしんせきの方やおじいさんやおばあさんも運動会だから見にいらっしやるかもしれないわね。それでね、もしそういう方が、ちよつといらっしやい、とか、写真をとってあげますよっておっしやったら、み

んなはどうする？まだ幼稚園の遊戯やなにかがみんなすまないときによ。そうね、そういうときは幼稚園のが全部すんでからにするのね。それから、知らない人がちよつとこっちにいらっしやいなんていわれたとき、もう、みんなわかるわね、知らない人にはついて行かないのね。ええと、それから、あ、そうそう、皆さんは、リレーをするんだけど、小さい組の方はリレーのかわりにおみやげを拾って走るかけっこをするの。だけどみんなにもちゃんとおみやげはあげますから大丈夫よ。みんなには、幼稚園に帰ってからあげますね。でも、何のおみやげかは今日はまだいえないわ。とつてもいいものなのよ。じゃあ、今日はうちに帰ったら、あした元気に走ったり、つなひきをしたりできるようにゆっくりおやすみしてね。それからあしたの朝、『ああ、今日は運動会でうれしいな！』なんてあんまり嬉しすぎて、朝のお食事をいただかないできたりすると、幼稚園に來てからおなかですきすぎて走れなくなったり、気持がわるくなったりするから、それも気をつけましょうね。じゃ、あしたの注意はそれくらいだわ。それから今日は手紙をひとつ持って帰ってちょうだいね」

十月七日 火曜日 晴

運動会の絵をかく

ぎんなんをあつめる

八時四十分

先生は大きい画用紙を準備している。

F 「せんせい、外に行ってもいい？」

先生 「ええ、いいわよ」

男児五名が話しながら、画帳に絵をかいている。

E 「せんせい、こんな、大きい？」 といって、大きい画用紙をみておどろく。

先生 「そうよ、こんなに大きいよ。運動会の絵、おもしろかったところをかきましようね」

E 「みんなかくの？」

先生 「そうね、みんなかきましようよ。自分の好きなときね。リレ—でも何でも」

E 「かみ、もろうよ。えんや、こーら。一枚もらったよ」

E は紙を頭にのせて、男児が絵をかいているところに行つて机に向かつてすわる。

先生は画帳に絵をかいている子どもたちに、

「みんな、今日、いいときに、この大きな紙に運動会の絵をかきましようね」という。

C がすでに運動会の絵をかき始めている。

先生はC がかいているのをみて、

「あら、C ちゃんも、もうひとりでできたのね。いいわね」とわらいながらいう。

D が E のところにきて、E の机によりかかつて話している。D はまだ絵をかいていない。

D 「なに、かくんだって？」

E 「うんどうかいの絵。みんなかかきや、いけないんだって」

D 「この人間、どうなるの？」

E 「あるよ、これ、今ぬりますよ」

D は E がかいている人間とつのおの名前をむすびつけて、

D 「鉄の人間だったら、鉄かぶとかぶれば、いいじゃないか」

A も話に加わる。A もまだ絵をかいていない。

A 「あつ、鉄かぶとかぶったって何にもならないじゃないか」

E 「いっとくけどね、鉄はかたいんだよ。かたい人間なんだよ」

A と D はしばらく話に夢中になっていたが、やがて、クレヨンと紙を持ってきて、絵をかき始める。

K が自分のひき出しからクレヨンを持ってくる。

K 「この場所、とつておいてね。旗をかくんだから。ほりあいせんせい、旗の本は？」

先生 「あそこにはつてある旗をみてね」という。

先生は、先生のまわりで運動会の絵をかいている子どもたちと話している。

⑯ がくる。

⑰ 「おとうばんなの」

先生 「おとうばん？」

先生は当番のリボンを持ってきて、

先生 「つけてね」といいながら、⑱ にわたす。

⑩「せんせい、わたし、ゆうぎしに行っているから、おあつまりのとき、よんでね」

先生「はい、はい。⑪ちゃん、ひとりで行くの？」

⑪「⑫ちゃんと⑬ちゃんと⑭ちゃんと」

先生「そう、じゃあ、行っていらいっしやい。よんであげるわね」

⑫「せんせい、わたしたち、人形の家に行ってくるの」

先生「そう？」

⑬「およばれにいくの」

先生「そう、いいわね」

⑭「たちは子どもの家へ行く。」

九時三十分

Kは運動会の絵をかいている。

K「せんせい、できた」といって、Kは人が走っている絵をかいて、先生のところへ持っていく。

先生「あら、いいわね、走っているの？ここに、みている人がいるでしょう。たくさんかくといいじゃない？お顔だけでも」

Kは先生から絵をうけて、机にもどってかきつづける。

まもなくKは先生のところへ絵を持っていく。

K「せんせい、かいたよ」という。Kはたくさん丸をかいて、その中に目、鼻、口をかいている。

先生はKの絵をみながら、

先生「頭、かかなくちゃ」

K「かいたよ。これ」

先生「あら、毛がないじゃない？」

K「あっ、そうだ、毛なしぼうずだ。毛、毛、毛、毛」といって、机にもどって、絵をかきつづける。

九時四十分

保育室

男児五名絵をかいている。

⑮が黒板に絵をかいている。

庭

男児三名、砂場で遊んでいる。

⑯が砂場で遊び始める。

子どもの家

遊戯室

おおぜいの子どもが遊んでいる。

⑰は運動会の絵をかくつもりで、先生のところに画用紙をとりに行く。

先生「何でもいいわ。ていねいにかいてね」という。

先生は運動会の絵をかくことを前提にして、何をかいてもいいという。

⑱「運動会の絵じゃないものでもいい？」という。

先生「いいえ、運動会の絵なら、何でもいいの。人がいっぱいいたでしょう？そういうのかいても、おもしろいわね」という。

九時五十分

先生は庭に出て、砂場で遊んでいる子どもたちの腕をまくってあげる。

◎と①がふたりに遊んでいるのをみて、

先生「◎ちゃんも、①ちゃんも、ここで遊んでいるのね。あのね、

あした遠足だから、今日中に運動会の絵を一枚かいてね」という。

保育室では◎がひとり、運動会の絵をかいている。先生は◎がひとり、絵をかいているのをみて、

「ひとりじゃ、大変だわ、あとだれ？呼んできてあげるわ。①ちゃんと②ちゃんと③ちゃんと」といって、遊戯室に呼びに行く。

十時十五分

十九名の子どもたちが運動会の絵をかいている。

子どもたちは絵をかいては次々と先生のところへ行く。

先生は子どもたちの持ってきた絵をみながら、子どもたちと話す。

先生はできあがった絵を保育室の壁にはっていく。

先生は◎がかいている絵をみて、

先生「◎ちゃんが幼稚園にきて一番いい絵ね。ていねいにきれいにかいたわね。とてもいいわ」という。

「Aちゃんもお顔があっていいわね」という。

十時二十五分

EやDは歌をうたいながらかいている。歌をうたいおわると、

「び、ん、ぼ、う、だ、い、じ、ん、だ、い、だ、い、じ、ん」といって字数をかぞえる。

先生はEたちをみて、

「Fちゃんをもらんなさい。だまって、いっしょうけんめいかいているわよ」という。

④が庭から入ってくる。

④「せんせい、ピアノをひいてもいい？」という。

先生「ピアノはおべんとうをいただいてからね」という。

電話がかかってきて、先生は職員室に行く。

十時三十五分

川の組の子どもがきて、

「山の上に、こんな大きな蚊がいたよ」という。

Eは絵をかきながら、

E「みはりばんしてて、いま、いくから」

H「ぼく、いってこよう」といって絵をかくのをやめて、庭に出る。

先生は川の組の子どもと話す。

先生「そう、大きいのがいたの？死んでるの？まあ」といって、川

の組の子どもの話をきいている。

川の組の㊸が九時半頃より時々きては、Tを待っている。

㊸「はやくしてよ、Tちゃん」という。

B「遊んできていい？」

先生「もう、おしまいした？おしまいしてからね。㊸ちゃん、今日は何で、えらいんでしょう。もう、これでおしまいかとおもったら、みている人までかいたのね、えらいわねえ」という。

十時五十五分

Tはやつと運動会の絵をかき終わって、㊸をさがしに行く。

T「もう、いないかな」といって庭に出る。

絵をかき終わって遊び始める子どもたちが多くなる。

男児が先生のところへ飛行機にする紙をもらいに行く。

先生は紙を出して、紙を切りながら、

「ここに切っておきますからね。やぶれたらかみくず入れに入れて下さいね」という。

Nがナイロンの袋にぎんなんをとってきて先生にみせる。

(少し前にナイロンの袋をちょうだいといって、袋をもらって庭に出た) 先生「ぎんなん、何でとったの？手で？はやく石けんでおあらいな

さい。しるがつくと、お顔がこんなになっちゃうのよ。ぎんなんどるときは、お箸か、木の枝でとるのよ」

Nはおどろいて、手洗い場に走って行き、しんけんを手を洗う。

㊸「ぎんなん、とってくる、㊸ちゃんと」

先生「そう、お箸でとるのよ」といって、箸とナイロンの袋をわたす。

十一時五分

先生は紙飛行機にする紙を切っている。

㊸が運動会の絵をかいているのをみながら、

先生「おもしろいわね。㊸ちゃんのおもしろいのができそうね」という。

C「聖火リレーするもの、この指とまれ」といっている。

C「せんせい、入って」

先生「どこでやるの？」

C「お外」

先生「Kちゃんも入ったの？」

先生は聖火のトーチを持って来る。

「Cちゃん、ここに聖火をおいとくから、人があつまったら、教えてちょうだい」といって聖火をおく。

(同じような光景が二十九日にもみられた)

(お茶の水女子大学)